

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	東北福祉大学				
取 組 名 称	重度障害者 ICT 支援コーディネータ育成				
取組学部等	総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科, 総合福祉学部社会福祉学科				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11098	申請の形態	単独	取 組 期 間	3年
申請の分類	専門基礎	体験活動		ICT	
キーワード	I C T支援, 重度障害者, コーディネータ				

<選定理由>

本取組は、社会福祉を学ぶ学生に、重度障害者のコミュニケーション手段獲得を支援する人材（ICT 支援コーディネータ）となるための教育を提供する意義深いプロジェクトであり、社会的意義も高く評価できるものである。

また、人材育成推進委員会の中に学内と学外の評価部会をそれぞれ設置するなど、厳正な評価が新たな改善に結びつくことが見込まれる。さらに、知の共有化のための T E X T や人材育成マニュアルの作成にも着手することとしており、他の機関への貢献も期待される。

ただし、本取組の実施に当たっては、大学全体での支援を得るとともに、学外との十分な連携を行うなど専門教育全般へ実施体制の充実が必要である。

取組の概要【1ページ以内】

【趣旨と目的】

情報化社会が進展する中で、特に重度障害者に注目した場合、意思伝達や生活の質改善という点で、パソコンをこのための道具として利用することが考えられる。また、障害者のための各種入力支援機器やソフトなども開発されている。しかし、これらを活用する重度障害者へのICT支援を担う人材は限られており、重度障害者が情報技術の恩恵を受けるためには、支援機器やソフトの環境設定を長い期間にわたって支援する人材（コーディネータ）が不可欠となる。そこで本取組では、地域においてこれらの人々を支援しうる、知識・技術・経験を有するコーディネータの育成を目的とする。人材育成にあたっては、地域と連携しながら、重度障害者ICT支援のノウハウの共有化も視野に入れることとする。

【内容と実施体制】

対象学生は総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科ならびに総合福祉学部社会福祉学科の学生から募集する。当該学科の既設福祉系・情報支援系専門科目に、具体的な体験活動・体験共有・入力支援スイッチ製作等を行うための専門科目を新規に加え、1年次から3年次までの3年間でICT支援コーディネータとして求められる素養と経験を涵養するとともに、本取組の教育課程修了にあたっては資格認証を行う。対象学生は各学年20名程度を目安とする。

このような人材育成は、特に地域に出向く経験活動を伴うため、地域との連携・協力が必要となる。このため、本学教職員及び地域有識者をメンバーとする「人材育成推進委員会」を構成し、教育の計画・内容・方法等について協議を行ってゆくとともに、これらの評価等も行いつつ、より効果的な人材育成課程として教育内容を充実させてゆく。

【評価体制】

上記委員会に「学内評価部会」及び「学外評価部会」を設置し、学内外からの教育評価が可能となる体制を構築する。その際、評価の対象となるのは、学内教育のみならず、地域における学生による実践的体験活動にまで及ぶ。インタビュー、アンケート等も含め、「人材育成推進委員会」にて評価様式を検討の上、人材育成課程にその結果を反映させる。

【実施計画】

本取組の財政支援を受ける期間は3年間の予定である。1年目の平成20年度には主として、ICT支援で必要な機器・ソフトの学習環境整備と、「人材育成推進委員会」の組織化、発足、協議といった体制作りが重点となる。また、重度障害者ICT支援の地域フォーラムを開催し、本取組をアピールするとともに、地域に介在する当該ニーズの重要性をアピールする。

2年目の平成21年度は、学生による本格的な専門科目の学習と地域における体験活動を開始する。その際、教育内容・方法のみならず、学生による経験を重視し、知の共有化のためにTEXTづくりに着手する。併せて、人材育成マニュアル作りにも着手し、他の機関による同様の人材育成に貢献することを視野に入れる。

3年目の平成22年度には発展的な専門科目の学習と経験活動を展開し、コーディネータとして求められる基本的な素養と経験を完結させ、資格認証する。併せて、TEXTの発刊と人材育成マニュアルの発刊を目指す。また、再度地域フォーラムを開催し、人材育成経験と学生による体験に基づいて重度障害者へのICT支援の現状報告と問題提起を行うこととする。

本学では、本取組への財政支援後も、資格認証を受けた学生を継続的に輩出させ、地域社会でICT支援を担う人材養成に努めてゆくこととし、大学の地域貢献機能の一翼として当該人材育成課程を維持してゆく計画である。